



10回目の節目を迎えた
福高塾は昨年11月13日、
地元博多や九州で居酒屋
やビストロなど様々な業
態の飲食業をはじめ、才
華、安心・安全の食材生
産や通販事業を行い、ま
た海外進出まで幅広く展
るか「自分を成長させ
ること、変えるこ
と」をテーマに、
下記の興味深い内
容を中心にお話を
いただきました。

仕事・人生／夜
警室の想い出（創
業のきっかけから
39年の軌跡）／小
二を占める仕事の時間
は遊び。人生の3分の
2をするかが大事と説か
れて楽しい人生を送るか。
そのためには余暇に何
をするかが大事と説か
れ、最後にもう一度、皆
さんも一度は、「何の

開している竹乃屋グループ
代表の竹野孔（たけの
とおる）さん（高26回）
をお迎えし、36人が参加
して品川区総合区民会館
で起こつたある出来事をきつ
けに福高の夜警室で1年半ほど夜

回りをしながら生活され
たとのこと。竹野さんは、
そんな自分で「やり遂
げたい」という決意の強
さと周りの人たちとのご
縁と協力があつて、今日
の成功に結び付いた、と
熱く話されました。ご自
身の体験に基づく、数々
の成功と失敗談を飾らず
ざつくばらんに話される
様に、一同、聞きや笑い、
そして共感と感動いっぱい
いました。

その竹野さんの信条
は、『趣味は仕事、本業
は黒永事務局長の音頭で乾杯の後、
中華料理を楽しみながら、質問や、
会話を語らい、最後は全員で恒例の懇親会で

学生時代に創業され、幾多の困難
があつたこととと思われますが、以来
ずっと仕事を楽しんで、成功にも満足
することなく、新たな事業に取り組
み続けている、そのエネルギーと熱
い考え方、同窓の皆さん的人生を充実させるヒント
になるものと思います。

第10回福高塾

多彩な事業展開で成長する
竹乃屋グループ代表
竹野孔さん（高26回）
飾らない成功と失敗談に
共感と感動



業は社会に元気を与える仕事

たとか。そして、浪人時代には中洲で起こつたある出来事をきつけに福高の夜警室で1年半ほど夜

ために生きているのか」、の『博多手一本』で締め、の『博多手一本』で締め、そして人生をどう楽しく過ごすかを真剣に考えらなく終えることができます。そこで「東京あさぼらけ」で締めくられました。

（報告・企画委員長 河津明信・高33回）

◆預金封鎖、難民の移動など、歴史の教科書で習うものとばかり思っていたが、日常のニュースで見かけるようになりました。世界が狭くなることは、結びつかないという意見に出あい、ウーン、そうなのかな。

（黒田義治・高7回）

（原口紘一・高15回）

◆百周年が近づいています。そしてノーベル賞も得たほうが良いとの言葉。福高ってスゴイですね。この「東京あさぼらけ」も18号、話題がなくなるどころか、ますます内容豊富に。同窓諸兄のスゴイ活躍と編集委員諸兄のスゴイ取材力の賜物ですね。（原口紘一・高15回）

編集後記

①

事務局報告

黒永哲至（高26回）

勤等で変更がありました
ら速やかに事務局までご連絡ください。

平成27年の常任幹事会は、第1回を6月22日にホテルローズガーデン新宿で常任幹事と役員の59名の参加で開催し、予算・決算の審議及び反省等を行いました。第2回は9月17日に同ホテルにて53名で開催。28年4月23日開催の同窓会総会・懇親会の企画及び予算を審議し、承認されました。

3000名以上の同窓会を円滑に運営するため、事務局からの連絡や常任幹事会の決定事項等の報告は、常任幹事を通じて行われています。それだけに各回の常任幹事（学年幹事）の役割は重要で、現在66名の常任幹事が事務局に連絡先の届出がされていますが、転

同窓会事務局も、活動のさらなる充実を図るために、高椋通直さん（高29回）、宮川稔子さん（高40回）、金城琢磨さん（高46回）の3名の強力メンバーに加わっていただき、まいります。皆さまのご協力をお願い致します。